2019年度　伊野地区自治協会　活動の総括

伊野のまちづくりはどこまで来たのだろう？

全体総括

◇伊野の将来ビジョン完成

ビジョン作りは伊野の歴史上、画期的な事業でしたが、本当に画期とするためにはビジョンをもとに、いっそう多くの住民によるまちづくりを進めることが必要です。

ビジョンづくりに、青年学生・壮年世代の新しい顔ぶれが加わり、まちづくりの裾野が広がりました。また、夫婦・親子等家族で伊野の将来を考える機運が広がっていることを注視したいと思います。

◇住民の新しい動き

トレイルランでエイドステーションを設けたり、国際ワークキャンプで外国人キャンパーに浴衣を着せたりなど、住民が楽しみながら参加する動きが生まれていることは、まちづくりを進める上で重視しなければなりません。

◇行政との連携強化

伊野のまちづくりに行政が深く関わるようになり、ビジョンづくりに大きな役割を果たしました。（しまね暮らし推進課、中山間地域研究センター、出雲市自治振興課、　海山応援センター）

◇伊野の取組に評価

昨年度、自治協会の総務大臣賞受賞に続いて、今年度は伊野いちが地域活性化に貢献していることが評価され、JA しまねから表彰されました。また、地区外・他県からの視察は、６件ありました。伊野のまちづくりを発表する機会も増え、５回ありました。

＊他地区からの視察：広島県庄原市、兵庫県新温泉町、島根県議会、神西コミセン、石川県加賀市 FR 隊、平田高校１年生

◇課題

ビジョンをいかして持続可能な伊野づくりを推進する人びとをさらに増やすことと、これらの人びとをつなげる推進組織をつくることが求められます。

予想される困難は、伊野の人口減少・少子高齢化のスピードに私たちのまちづくりがついていけるかどうか、必要な取組に人材と資金を確保できるのか、ということです。

１　1,000 人でつくる持続可能な伊野ビジョン作成

伊野の将来ビジョンをつくるため、「伊野の未来を創る戦略会議」を４月に立ち上げました。７０余人のメンバーが７つの部会に分かれ、熱い議論を重ねてビジョンができあがりました。部会メンバーは７０人、それにフォーラム参加者を加えると約１５０人余、行政・他地域参加者を含めると２００人余でつくりあげた将来ビジョンです。

できるだけ多くの人が話し合いに参加できるように、まちづくりフォーラムを３回、まちづくりカフェを１回開催しました。参加者数は延べ２６０人にのぼります。

次年度は、ビジョンをもとに各町内や団体で話し合いを進め、具体的な取組（アクション）

を起こしていきます。

２　縮む地域社会に見合った組織や活動の検討

２０１１年度の自治協会加入戸数数は３５６戸、今年度は３２３戸。この間、３０戸以上減っています。戸数減少と高齢化によって生じる問題について、昨年度、検討委員会を設け主に町内会長の負担軽減策を決めましたが、その後の検討はできませんでした。

＜今年度の改善点＞

・スポーツ行事…バレーボール大会をハードとソフトに分けた（結果、それぞれが半々）
・町内会長の負担軽減…交通安全街頭指導、敬老会参加、文化祭準備等の負担軽減
・文化祭…新しい文化祭を企画する実行委員会が立ち上がり、伊野インスタグラム大会の実施や他地区からの出店増加など貴重な成果を挙げました。
・財政…自治協会収入の減少が今後も続くと推定されるので、緊縮財政に努めています。今年度は、各種団体やサークル活動（生涯学習）に対する助成を減らしました。

３　ＩＵターン促進　関係人口・交流人口拡大

（１）IU ターン促進　空き家活用

○今年度は U ターン家族が３組ありました。いずれも小学生がいる家族。この数年、毎年１～３組の U ターン家族がありますが、特別な働きかけをしているわけではありません。

○空き家についての問い合わせが３件ありました。しかし、空き家情報の集約が不十分なため、確実な情報提供ができないでいます。空き家はあっても修繕が必要な物件がほとんどであること、空き家を求めている人と所有者のマッチングがコミセンや自治協会では難しいなどの課題があります。

（２）交流人口・関係人口拡大、伊野暮らし体験

○イベント参加

・トレイルランは第１回参加者が７０人、第２回は１１０人、今年度は１７０人と増え続けています。自主的にエイドステーションを設けるなど住民の関心も高くなっています。

・伊野いちのお客様は毎回、３００～３５０人で推移し、安定した運営が続いています。伊野いちに魅力を感じるお客様は増え続け、毎回案内を希望する伊野いちファンは１６０人余に達しています。こうした活動が評価され、JA しまねから表彰されました。

（３）情報発信体制の強化

○伊野地区自治協会 HP は閲覧者からは高い評価を得ていますが、更新体制が弱く、新鮮な情報をタイムリーに発信できない弱点を抱えています。

○伊野のインスタグラムが立ち上がり、写真コンテストが行われました。応募作品は８０点ほどありました。

（４）ふるさと会員拡大

新規会員は２３人、合計１７２人が登録されています。会員の皆さんとの交流や会員のみ

なさんの力をいかすまちづくりについて具体的な方法を考えなければなりません。

４　他地域や行政との連携

○一畑電車との連携

５月１２日、一畑電車祭イベントに伊野ちょんぼし市が松江しんじ湖温泉駅前で出店。来年度は、ちょんぼし市の出店に加え、木綿街道に２店出店することになっています。

○平田商工会議所との連携

１０月２０日、平田まちあそびイベント（人生ゲーム）で平田本町プラザで伊野アンテナショップを開催しました。（２年目）

○県・市との連携

県中山間地域研究センターと市うみやま応援センターのスタッフが戦略会議やまちづくりフォーラムに頻繁に参加し、ビジョンづくりを応援してもらいました。島根県議会の視察もあり、注目してもらっています。

５　子育ては伊野で

○子ども預かり延長

保護者の皆さんの声を聞く会を２回開催。来年度から平日の児童館開館時間を１２時～１８時に変更。長期休業中は８時～１５時まで児童館で、１５時～１８時までいのっ子教室で預かる体制をつくりました。

○伊野小魅力化支援

小学校５・６年生の伊野いち参加、まちの幸福論を考える山崎亮さんの出前授業、草刈やプール清掃ボランティアなど、地域の応援体制が定着しました。

○未就学児童保護者交流

戦略会議教育部会や子ども預かり延長についての話し合いに未就学児童の保護者が１０数人あり、今後、これらの人びとを中心に活動を興していくことが大事です。

○２０～３０代女性のまちづくり参加

わずかだが、参加者が出てきました。女性参画を正面に据えた取組が必要です。

○伊野ベーション

参加者が特定の子どもたちに偏る傾向が出ているので、今年度は地元の態勢を刷新する努力が続けられました。伊野ベーションを通した赤名地区の子どもたちとの交流も３年目を迎え、定着しました。

６　伊野の資源を活用した取組

従前のもの以外に新規の活動は生まれませんでした。杜氏文化、伊野の自然、歴史文化などの資源をいかしたまちづくりは今後の課題です。

７　安全安心

○災害時要支援者支援個別計画

伊野地区の避難行動要支援者個別支援計画が町内会長のみなさんの尽力を得て完成しました。また、災害弱者対応について各町内で話し合いをもっていただきました。

○危険マップ作成（交通　土砂災害　その他）

戦略会議安全・安心部会が伊野地区の危険箇所（交通、土砂災害等）をしるした「危険マップ」を作成しました。

○避難道路

伊野本線金森・東地合工区の改良事業に関わって、今年度は東地合の地籍調査が実施されました。斐川一畑大社線（地合工区）の工事は順調に進んでいます。

○伊野川井堰改修

防災・減災事業としての伊野川井堰改修事業が完了しました。